

人文学基礎（人文学と対話）第5回

人文学とデジタル技術

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林）木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歡さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学）水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

授業の目的と内容

【目的】

人文学とデジタル技術との関係（デジタル技術による人文学研究の形や意味の変化があるか、デジタル技術の進展に対する人文学の寄与、技術の倫理的な問題についての人文学からの問題提起など）というテーマについて、〈問い〉を立てて一つを選び、協働の探究を始めてみよう

【内容】

1. はじめのミニワーク “発声練習”（15分）
2. 今日のワークの説明（20分）
3. 対話型ワーク⑤
「デジタル技術と人文学」というテーマについて、Plain Vanilla形式で対話と探究を行う（45分）
4. 各グループで選ばれた問いの共有＋ふりかえりシートの提出および授業に関する連絡（10分）

はじめのミニワーク ”発声練習”

- (1) 誰かが簡単・簡潔に答えられる質問（できればその人らしさがわかるものがよい）をします。
- (2) 名前を呼ばれた人は、「私の名前は〇〇です、質問への答えは～～です」と最初の質問への答えを短く、一言で答えてください。
(この時点で、その日の授業への参加に支障がある場合は申し出てください)
- (3) 自分の番が終わったら、次の人を指名します。この時、自分の番が回ってきていない人は、指名する人がわかりやすいように、手を上げるなどのアピールをしてください。
- (4) 全員が話し終えるまで、これを繰り返します。

今日の質問は、「 _____ ？」です。

この質問に答え、ジェスチャーをしながら次の人を指名してください。



対話型ワーク⑤

「人文学とデジタル技術」というテーマ
についてPlain Vanilla形式で対話と探究
を行う

Plain Vanilla形式とは

- ◆ ハワイのこどもとする哲学対話（Philosophy for Children）では、学校の授業等で、探究を行うための単純な五つのステップ（Plain Vanilla）が用いられている
- (1) Read（経験の共有）：短い文章などを全員で読む。これ以外にも映像を見る、絵や写真を見るのでもよい
 - (2) Question（問いを立てる）：読んだ文章や共有された素材、経験をもとに、それぞれの参加者・生徒が考えたい〈問い〉を立てる（教師が提示する問いではなく、参加者・生徒たちが立てた問いについて話し合うことが重視される）
 - (3) Vote（問いを決める、投票）：全員の問いから今日考えたい問いを決める
 - (4) Dialogue/ Inquiry（問いについて話し考える）選ばれた問いについて話し合い探求する
 - (5) Reflection（振り返り）：今日の探究はどうだったか、振り返る
話し合いをまとめたり、結論を出すことはせず、（1）対話に積極的に参加できたか（2）対話の内容は関心の持てるものだったか（3）対話の場はセーフだったか（4）自分、他人、テーマについて発見があったかをそれぞれが振り返る

「人文学とデジタル技術」について、Plain Vanilla形式で対話と探究を行う（1）

【ワークの進め方】 **前半25分：問いのシェア・明確化・問いを選ぶ**→後半20分

グループになったら、**まず進行役（どのステップか確認・明示する係）とタイムキーパーを1人ずつ決めてください。**できればこれまで進行役をやったことがない人も、ステップにしたがって進めばよいだけなので、チャレンジしてみてください。

前半1：問いのシェア：第5回の事前学習動画を観てそれぞれが立ててきた〈問い〉を立ててきた〈問い〉をチャットに書く
→チャットで上に表示されている〈問い〉から〈問い〉を立てた人がなぜその問いを立てたのか短く話す

前半2：問いの明確化：**進行役がチャットの表示順に〈問い〉をひとつずつ取り上げ、その〈問い〉で、何を話し合えばよいのか分からない点があれば他の人に質問してもらい、明確化させる**

※第3回の内容参照、ただし今回は問いの検討だけにはあまり時間は割けないので下記のことのみ確認する。
問いの内容自体の修正や、文章の修正はしなくてもよい。

(1) その〈問い〉で何を考え、意見を述べたらよいか、グループ全員が分かっているか

(2) その〈問い〉は、さまざまな人が異なる意見を述べられるものであるか、またその問いについて考えることができない（問いの前提から排除されている）人がいないか

前半3：問いを選ぶ：全員の〈問い〉が明確になったら、（すこし考える時間をとってから）今日どの問いについて話し合いたいか、1人1票を持って投票を行う。もし同じ投票数で複数の〈問い〉が選ばれたら、その〈問い〉だけで決選投票ををするなどして〈問い〉を一つ選ぶ

進行役は、今日の〈問い〉が選ばれたら、どうしてもその〈問い〉では話したり考えることが心理的につらい、という人がいないか念のため確認し、いなければその〈問い〉で対話を開始する

「人文学とデジタル技術」について、Plain Vanilla形式で対話と探究を行う（2）

【ワークの進め方】前半25分→後半20分：選んだ問いについて対話と探究

後半1：問いについての考えをシェア

：（すこし考える時間をとってから）言っぱなし聞きっぱなし方式で、まずは選ばれた〈問い〉について、それぞれの人が思うことや考えをシェアする

最初に話すのは、選ばれた〈問い〉を考えてきた人が話し、それ以降は発言者が次の発言者を指名したのでよい。

※今日の授業では、この（4）までは自分たちで到達することが目標

後半2：次のステップ（探究の深まり）

：他の人の話したことについて特定の誰かの発言について質問があればする。コメントや反論はしない。

あるいは全員の話聞き、そこから次に全員に投げかけたい〈問い〉（次の論点）※があれば、出してもらい、それについてそれぞれの考えをシェアする

※ふりかえりシート9：協働の探求が進むように、積極的に新しい論点を出し、対話の進行についての提案をする

この授業では「論点」とは、次のような〈問い〉の提案を指します。

・最初の問いについてのさまざまな人の考えを聞いた上で、全員が共通に話し合える〈問い〉で、最初の〈問い〉をさらに深めたり、焦点化して考えることができる、次の〈問い〉


・考えが分かれた場合は、考えが分かれるポイント（言葉の意味づけ、条件、価値や前提のちがひ、など）について一緒に考えられる〈問い〉

【参考】対話と探究における「進行役」の役割

対話と探究における「進行役」の役割は、通常の話し合いにおける「司会」とはやや異なります。「進行役」になった人は以下の点に気をつけて進行をしてみてください。

【基本の考え方】対話における進行役は強いリーダーシップ（発言者を指名する、それぞれの発言を引き取ってコメントする、話し合いをまとめる）を発揮する必要はありません。今何を話したらいいのかを参加者に明示すること、参加者全員が偏りなく参加できる環境を作るのが進行役の役割です。

- (1) 進行役はグループの探究がどのステップにいるかを確認、明示してください。 時間管理、リマインドはタイムキーパーが行ってください
- (2) 発言の順番は、決まっている順番で回すか、進行役が最初の1人を決めあとは発言した人が次の発言者を指名します。
- (3) ある論点（問い）についての意見を一通り全員が言い終わったら、まとめることはしないで、他の人に対して質問はあるか、全員に対して投げかける質問や〈問い〉（次の論点）があるかを全員に聞いてください。複数質問したい人が出てきた場合には進行役が指名してもよい。複数〈問い〉がでてきた場合は、つぎにどの〈問い〉について話し合うか全員に聞いて決める。
- (4) 進行役は、話し合いを早く進めることよりも、全員がよく考えられるように、何かを決定したり話し出す前に、すこしそれぞれが考える時間をとることを心がけてください。
- (5) 1人の話が長い場合や、特定の人たちだけで話が盛り上がっている場合は、話を理解できていない人や他に言いたいことがある人がいないか確認しましょう。
- (6) 進行役自身も対話と探究の参加者です、進行に徹するのではなく自分の意見も話してください。



ふりかえりシートへの記入および
次回の事前学習について

ふりかえりシートの記入・提出について

- ◆ 今回も、今日の対話を振り返って、ふりかえりシートを記入し、提出してください。【1】と【2】については記入は必須です。
- ◆ 今回は（3）の項目に以下のことを書いてください
 - ・自分が立ててきた〈問い〉
 - ・グループで選ばれた〈問い〉
 - ・グループで話し合った〈問い〉について他の人の意見を聞いてあなたが考えたり、気づいたりしたこと
- ◆ 第6回の事前学習として、テーマ「人文学研究と倫理」について解説した事前学習動画（前・後編）を視聴してください。そして、事前学習動画でとりあげた3つの事例のうち一つを選び、それについてのA、Bどちらの立場かを選び、そう考える理由を準備してください。

人文学基礎（人文学と対話）ふりかえりシート 第 〇 回（ 〇 月 〇 日）分

クラス：春学期 曜日 名前（授業以外のマナーネーム）

【1】（必須）今日の授業（講義点）でのあなたの態度・状態を振り返って正直に記入してください

		1 とても いい	2 ややいい くらい	3 普通	4 やや悪い くらい	5 とても 悪い
セルフ アサー ティブ	1 自分とは異なる意見が考えられ、いまだに批判や否定せず、敬重、理解しようとする 2 自分の強みや相手にとってのメリットを、相手と自分の強みが違う場合でも、それにも甲斐が通ずるような言い方で伝える 3 様々な異性、能力や個性の人が発言しやすい場をつくるために配慮する					
アクティ ブリス テニア	4 自分とは異なる意見が、考え方を身につけて、相手も考えや自分と他人の違いを知るために必要な視点から質問をする 5 相手の話し方、考え方について、相手の立場を立って、共感的に理解する					
セルフ アセス メント	6 相手の対話のなかで、自分が感じ、考えていることと無意識に込められたことと（動機）にあるため気づく					
協働の 実践	7 具体的な事例や課題の課題について、自分で考える切り口を見つけ、探求のための「問い」を立てる 8 他者を考えたいこと「問い」を理解し、それに対する答え、自分自身の意見を言う 9 協働の関わりを通じて、積極的な新しい関わりを築き、対話の進行についての提案をする					
コミュ ニティ	10 対話の参加者（クラスメンバー）に対して、誰いながらも積極的に学ぼうとする姿勢（コミュニティ）が感じられる					

【2】（必須）今日の対話で、印象に残ったこと、自分や他人、テーマについての気づき等【1】の項目の自己評価がよくも悪くも変わった場合には、そう考えた理由を書く

【3】（授業内で指図があった場合必須）授業の内容のふりかえり、グループで話された内容についての気づき、あなたが考えたこと

【4】（任意）教員からの回答や対話が必要なこと